

| 2. 事業の目的と概要 | |
|--------------------|--|
| (1) 上位目標 | シンズリ郡丘陵地域において、高価値農産物の持続的な生産・供給体制が整い、生計向上の基盤が築かれる。 |
| (2) 事業の必要性 (背景) | <p>(イ) ネパールにおける一般的な開発ニーズ</p> <p>ネパールでは、長らく続いた紛争と政情不安の後、2008年5月に連邦民主共和制への移行が宣言され、新たな国づくりに向けたプロセスが開始している。一方、貧困率は55.1%¹と依然として高く、平野部と丘陵・山岳地域、カースト、民族間の格差が大きい中、ネパール政府の3カ年計画(2009/10 - 2012/13)²においても、格差解消に配慮したより包括的でバランスのある貧困削減を目指すことが、安定的な発展に向けた重要課題の1つとして掲げられている。</p> <p>ネパールにおける地方の貧困問題の大きな要因としては、インフラの未整備や地理的条件に適した農業技術の不足等により、主要産業である農業分野の生産性が低いことがあげられる。こうした背景の中、ネパール人口の6割強が従事する基幹産業である農業分野において収入機会を向上させることで、地方の貧困削減を図ることが重要課題の1つとなっている。</p> <p>(ロ) 事業背景</p> <p>当事業地が位置するシンズリ郡は、紛争の影響を大きく受けた地域の1つであり、ネパールの中でも相対的に貧困率が高い地域である。地理的条件に適した農業技術の不足に加えて、近年シンズリ郡は森林破壊による土壌浸食や家畜飼料の不足に直面している他、灌漑設備の不足も農業の生産性向上を妨げる主要要因の1つとなっている。更に、労働人口が出稼ぎで都市部に流出することによる農地の荒廃も近年問題となっている。こうした背景の中、シンズリ郡では、平和構築を進めながら経済成長を目指すネパール政府の方向性に沿って、民族やカースト間の格差解消に配慮しながら、基幹産業である農業の生産性を持続的に向上させることで貧困削減を図ることが課題となっている。また、シンズリ郡は、首都カトマンズと穀倉地帯タライ地方を結ぶ幹線道路として日本のODAによって建設されているシンズリ道路の沿線にあることより、整備された流通網を活かして農業の収入向上を達成するために、野菜、果物やミルクなどの高価値農産物普及やマーケティング活動を通じて農業経済の構造を市場駆動型にシフトしていくことが今後の課題としてあげられる。</p> <p>当事業地であるシンズリ郡クセスワ・ドゥムジャ村は、マガル族、タマン族やハユ族などの先住民族や低カーストの住民が人口の7割強³を占めている。住民の大半は生活環境が厳しい丘陵地に点在するコミュニティに暮らしており、貧困率はネパール国内においても相対的に高い59.4%⁴に上る。一方、クセスワ・ドゥムジャ村はシンズリ道路沿線に位置することより、整備された流通網を活かした生計向上が期待されているが、市場性を重視した適切な農業技術が普及しておらず、住民は従来の農法に頼った生産性の低い農業を行っている。本事業形成にあたり、当法人が住民と対話型の集会を開催してニーズ調査を行った結果、シンズリ道路開通によって物理的に市場へのアクセスが可能となったことに対する期待感が高まっている一方、地域の気候風土に適った作物を選定して栽培する技術や、家畜の飼育技</p> |

¹ Human Development Report 2010: UNDP (the United Nations Development Programme), 2010.

² Three Year Plan Approach Paper (2009/10 - 2012/13): National Planning Commission, Government of Nepal, August, 2010.

³ Statistics of Sindhuli District 2065 (2008): Sindhuli DDC (District Development Committee)

⁴ Poverty Mapping and Development Census in Sindhuli District 2065 (2008): Sindhuli DDC

| | |
|-----------------|---|
| | <p>術などが不足している状況が明らかとなった。また、若い世代からは、新しい技術を学んで収入を上げることができれば、同世代の若者が出稼ぎに出なくて済むという声もあげられた。このように調査を通じて、住民の中で、整備された流通網を活かして生計向上の基盤を築くために、適切な農業技術を学ぶことに対するニーズが高まっていることが確認された。</p> <p>このようなネパールにおける一般的な開発ニーズと、その潮流に沿いながら地域の特性に適った支援が必要とされている事業地のニーズを背景として、高価値農産物の持続的な生産・供給体制が整い、生計向上の基盤が築かれることを目指した本事業を申請するに至った。</p> |
| <p>(3) 事業内容</p> | <p>クセスワ・ドゥムジャ村の9区、延べ690世帯、約4,300名を直接裨益者に、周辺4村の2,500世帯、約15,000名を間接裨益者として、下記事業を実施する。</p> <p>(イ) 高価値農産物の生産技術普及 【果樹・野菜栽培技術の普及】 (裨益者数：140世帯)</p> <p>対象となる高地エリアは温帯果樹や高原野菜栽培に適した気候エリアとなるが、技術支援をこれまで受ける機会のなかった住民は主に自給を目的として、果樹の粗放栽培や従来の農法によるジャガイモや豆類の栽培などを行っている。事前調査においても住民から、果樹と野菜栽培において適切な品種の特定や栽培技術普及に対する支援ニーズがあがった。本事業では、市場性があり、対象エリアの気候に適した果樹として、キウイや柑橘類を中心とした果樹栽培の技術普及と、カリフラワーやキャベツなどの高原野菜を中心とした野菜栽培の技術普及を実施する。果樹栽培においては、JICAプロジェクトなどを通じた日本のODA支援によって、高い技術力を有するカトマンズ近郊のキルティプル園芸センターより現地人専門家を招聘し、対象エリアを更に、高度、斜面の方角や土質などの地理的条件によってゾーニングし、それぞれのゾーンに最も適した果樹の選定を行う。また、粗放で行われている既存の果樹栽培（ジュナール⁵や柿）については、果樹の殖やし方などの栽培技術や、品質改善を目指したポストハーベスト技術の支援を行う。野菜栽培技術普及においては、シンズリ郡農業農村開発事務所と連携する。</p> <p>【家畜飼育・ミルク生産技術の支援】 (裨益者数：180世帯)</p> <p>対象エリアでは、生計向上活動として、水牛を飼育し採取したミルクを販売する活動を行っているが、住民は十分な技術を有しておらず、事前調査においても技術普及に対する支援ニーズがあげられた。本事業では、シンズリ郡家畜サービス事務所と協働で疾病対策に関する研修を実施する他、ミルクの品質が向上することを目指し、飼料の栄養価や家畜の衛生管理に関する研修も実施する。</p> <p>(ロ) 農業生産環境の保全と強化 (裨益者数：120世帯) 【土壌保全技術の普及】</p> <p>事業対象地域で課題となっている土壌浸食を考慮し、土壌浸食を防ぎながら持続的に土壌の栄養改善を図る目的でアグロフォレストリーの技術を導入する。既存の家畜飼育活動を活かして果樹や野菜を栽培する土壌の栄養状態を改善することを目指し、品質の良い堆肥作りの研修を実施する。また、環境に負荷がかからず栄養が豊かな天然肥料であるミミズ堆肥作りの研修も実施する。研修実施においては、</p> |

⁵ オレンジの一種で甘みの強い果物

| | | |
|---------------------------|--|---|
| | <p>キルティプル園芸センターの土壤マネジメント専門家と連携する。</p> <p>【小規模灌漑の設置】（裨益者数：250 世帯）</p> <p>果樹・野菜栽培技術の普及を実施する高地エリア（6～8 区）において、安定的に果樹・野菜栽培の生産高と品質を向上させる目的で、小規模灌漑の設置を行う。本事業では、3 箇所の水源（コトゥレ水源、チャンチャン水源とオクレニ水源）を活用し、取水・貯水タンクの設置と、貯水タンクから農地に灌漑水を供給するためのパイプ整備を行う。また、裨益するコミュニティ（合計 250 世帯で構成）を対象に、小規模灌漑の運営・管理に関する研修も実施する。</p> | |
| <p>（4）持続発展性</p> | <p>ソフト事業（技術支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地域の気候風土に適った栽培作物を選定することで、事業終了後も地域の住民間で普及を行っていくことができる汎用性の高い農業モデルを確立する。 - 貧困削減基金によって編成された既存のコミュニティ組織や同じ作物を栽培するグループごとに研修を実施することで、住民が協働して技術の実践や作物の販売を行うことができる環境を整える。 - シンズリ郡行政機関の郡農業開発事務所や郡家畜サービス事務所と連携して研修を実施することで、現地行政機関が事業終了後も地域住民を対象に、汎用性が高い農業モデルを普及して行くことができる体制を整える。 <p>ハード事業（小規模灌漑整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 小規模灌漑によって裨益する地域のコミュニティが建設段階から参加し、また使用料金を負担することで、主体的に維持・管理する体制を整える。 | |
| <p>（5）期待される成果と成果を測る指標</p> | <p>期待される成果</p> <p>果樹・野菜栽培技術が普及する</p> <p>家畜飼育・ミルク生産技術が向上する</p> <p>土壤保全技術が普及する</p> <p>小規模灌漑設備が整備され、農業の生産環境が強化される。</p> | <p>成果を測る指標</p> <p>最低 40 世帯が果樹栽培技術を学び、収穫を迎える 1～3 年後に品質の高い果物を供給するための生産基盤が整う。</p> <p>最低 60 世帯が高原野菜の栽培技術を学んで実践し、事業完了時点で生産基盤が整う。</p> <p>最低 80 世帯が家畜飼育とミルク生産技術を学んで実践する。</p> <p>最低 60 世帯が品質の高い堆肥作りを実践し、事業完了後 1～2 年後には農地の栄養状態が改善する。</p> <p>対象エリアにおいて、貯水用の 16 タンクと農地への給水パイプが設置され、小規模灌漑設備の整備が完了する。</p> <p>250 世帯（農地面積：44.9ha）が小規模灌漑設備によって裨益し、農業の生産環境が強化される。</p> |